

[想定地震の情報] ★印：徳島県公

| 名称 | 震度 (★) | 発生確率 (30年以内) | 1週間後断水状況 (断水人口) (★) |
|-----------|--------|--------------|---------------------|
| 南海トラフ巨大地震 | 6強 | 70~80% | 70% (10,600人) |

[計画の目的]

重要給水施設に向けての管路及び重要度の高い水道施設はレベル1・2の2段階の地震動を考慮した耐震化を早期に、且つ、確実に実現させる。

[耐震化目標]

主要管路の耐震管率の目標値は63%とする。(一次整備)
取水施設・導水施設の耐震化

[水道事業の現状]

- (1) 給水人口 15,034人
 - (2) 施設能力 13,000m³
 - (3) 給水戸数 5,921戸
 - (4) 水道施設
 - (5) 総管路延長 105.7km
 - (6) 災害対策施設
- ※H28年度末の数値を示す

[耐震化の現状と課題]

- (1) 浄水施設・配水池は耐震化済
- (2) 配水管の耐震化の現状
 - 1) 耐震管更新済延長 31.4km
 - 2) 総管路耐震管率 30% (H28年度末)
- (3) 水道施設耐震化への課題
南海トラフ地震の発生確率が高まった事を受け、地震動、地盤変状、津波に耐えられる施設とすると共に、早期に復旧する事が重要。

[施設耐震化に向けた基本方針]

- (1) 管路の耐震化計画は、一次整備として平成31年度から10箇年で施工する。
- (2) 一次整備は、避難所、医療機関、自衛隊基地等重要給水施設を対象とする。
- (3) 耐震化の優先順位は、上流側の施設から下流へ実施する。
- (4) 二次整備については、一次整備完了前に検討する。

[耐震化実施計画] (一次整備)

- (1) 一次整備の耐震化計画
 - (2) 一次整備の耐震管延長 13km
 - (3) 一次整備の耐震管率
- | | 管路延長 | 耐震管率 |
|------|---------|------|
| 総管路 | 105.7km | 42% |
| 主要管路 | 70.5km | 63% |
- ※主要管路とはφ75以上の管路を示す
- (4) 一次整備の事業費 2,550百万円

[具体的な耐震対策]

[取水塔、導水管]



- (1) 取水塔は、動的解析を実施し地震動、液状化の対策を実施する。
- (2) 導水管は取水塔の変位を吸収する伸縮装置、落橋防止装置を設置する。

[浄水場、配水池]



浄水場、配水池本体の耐震化対策は完了済み。

[埋設管]



埋設管は、耐震管により地震動、液状化に強い管路とする。

※地震動レベル1. レベル2とは

(1) レベル1地震動
中規模の地震で、その施設の耐用年数中に一度以上は受ける可能性が高い地震動を指します。つまり、比較的頻繁に起きている地震です。
※地震によって健全な機能を損なわない性能

(2) レベル2地震動
大規模の地震で、その施設が受けるであろう過去、将来にわたって最強と考えられる地震動。想定しうる範囲内で、最大規模の地震を指します。たとえば南海トラフの巨大地震がそれにあたります。

※地震によって生じる損傷が軽微であって、地震後に必要とする修復が軽微なものにとどまり、機能に重大な影響を及ぼさない性能